



# 園だより



令和5年1月27日  
佛教大学附属幼稚園



「仏教保育2月のねらい」  
ぜんじょうせいじゃく  
禅定静寂

「落ち着いた毎日を」

園長 佐藤和順

例年、厳しい寒さが続く2月。子どもは白い息をはいたり、冷たい空気を肌で感じたり、園庭の氷を手にしたりと小さい身体で「冬」を感じながら過ごしています。

日本には、春夏秋冬という「四季」があり、それぞれ立春・立夏・立秋・立冬が季節の始まりの日です。前日は季節の変わり目にあたります。「節分」です。江戸時代以降は特に立春の前日のことを指すことが多くなりました。季節の変わり目には邪気（鬼）が生じると信じられていたこと、また、この時期はまだまだ寒く体調を崩しやすいことから、邪気あるいは病魔を追い払うために、古くから豆まきの行事が行われています。今年は2月3日が、その日にあたります。園でも豆まきを行います。新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮し、子どもが楽しみながら、鬼、疫病を遠ざけることができることを願っています。

今月の保育目標は「禅定静寂（ぜんじょうせいじゃく）よく考え落ち着いた暮らしをしよう」です。「禅定静寂」とは、落ち着いた豊かな心で、どのような環境にも心静かに対応することを意味しています。思いつきを実行すると、失敗することがままあります。行動に移す前にじっくりと考え、世の中の動きに巻き込まれずに、しっかりと地についた生活をする事の大切さを教えてくれています。



今年に入ってもコロナ禍の収束には至らず、いろいろな制約や厳しい状況での保育が続いています。コロナ禍に加えて、来年度からの認定こども園移行の準備も行われています。調理室の増設、保育室の改修等が行われ、保育や子どもの行動に一層の制限がかかっているのが現実です。保育と並行して工事が行われているため、保護者の中にもなんとなく落ち着いて過ごすことができないと感じていらっしゃる方もいるのではないかと思います。私たち保育者も通常の保育、工事に加え、ついつい来年度の準備に追われ慌ただしい日々を陥ってしまいがちです。このような状況だからこそ、今月の目標である「禅定静寂」に努めたいと考えています。先のことを予測し、優先順位をつけながら業務をこなしていく所存です。

子どもは身近な大人をよく見ていて、良いところも悪いところも全部吸収してしまいます。子どもの手本となるよう、目の前の忙しさに振り回されることなく、物事をよく考え、心にゆとりを持って発言や行動をしていきたいと思っています。このような時だからこそ、一層、よく考え落ち着いた行動したいものです。それこそが「禅定静寂」の心です。